



問い合わせ

企画財政課企画係 ☎ 2-1120

12年の眠りから目覚めた学び舎

「八丈島の海・山・暮らし館」誕生！

八丈島で最初に開かれた公立小学校、末吉小学校。明治5年の開校から141年もの間、地域子どもたちを育て、見守ってきた学び舎です。しかし2013年、惜しまれながらもその歴史に幕を下ろしました。そして今年、12年の沈黙を破り、末小は島の未来に向けて“第二の人生”を歩み始めます。

この場所に込められた地域の想いとは？末吉自治会 会長 浅沼幸友（あさぬま ゆきとも）さんに伺いました。

閉校という現実、残った悔しさ

閉校の決定は受け入れました。でも校舎はまだ新しかったんです。「本当にもったいないな」って。悔しい気持ちが残ったのは正直なところです。

(幸友さん)

「きっと、いつか…」地域の静かな情熱

校舎は「多目的交流施設」として利用されましたが、年月とともに使われる機会は減少。

そして追い打ちをかけるように訪れたコロナ禍。地域活動が大幅に制限される中、それでも「この場所を活かしたい」という声は、細く、でも確かに生きていました。

心に残っていたのは、閉校記念誌に載った当時の阿部勇知校長の寄稿でした。その一節を紹介します。

(幸友さん)

「これから末吉小学校は、島の発展のための新しい使命を受けるまで、暫しの休息に入ります。その新しい使命に対応できる力を蓄えながら…」

あの言葉が忘れられませんでした。まさに今、この瞬間のことを言っていたんだと。

22年間の“雌伏”を経て、末小は使命を受けて動き出したんです。

(幸友さん)



4/2 開館日のテープカット風景。左から3番目が幸友さん

坂上はひとつ

新たに開業する「八丈島の海・山・暮らし館」は、末吉発の情報拠点。

地域住民と訪れる人とが出会い、語らう場所を目指しています。

みはらしの湯を核に、点ではなく線にして、坂上エリア全体が一体感をもって動けたら。この場所から、末吉、そして坂上の魅力を広く発信していけると良いですね。

(幸友さん)

編集後記

長く眠っていた校舎が、ふたたび人を迎える場所としてよみがえる――。

これは単なる施設の再活用ではなく、地域の記憶と情熱が“かたち”になった物語だと感じました。

「八丈島の海・山・暮らし館」へぜひお出かけください。かつての教室が、あなたに新しい発見を語りかけてくれるはずです。

八丈島の海・山・暮らし館

【住所】末吉 2648 【電話】8-0302

【開館時間】10:00～17:00 【休館日】火曜日

【入館料】島民 100円  
島外 500円



海・山・暮らし館のホームページ ▶